

日 時 令和4年10月4日(火)

児 童 15名

指導者 川井 隆太

1 単元名 「おでや あんせ! くずまき!」 第2小単元「葛巻町のお店の応援団になろう」

2 単元の指導構想

(1) 教材(題材)について

葛巻町の中心市街地は、JRバス葛巻町を中心として、役場をはじめ公共施設、商業、サービス業、居住等の様々な機能が集中し、「町の顔」としてのにぎわいを見せてきた。しかし、近年は、社会経済や消費者行動の変化などにより、買い物の5割以上が町外で行われているなど、厳しい状況である。こうした状況から、町では、「葛巻町中心市街地活性化基本計画」を策定し、「町の顔」としての再生、市街地の活性化に取り組むことを決めている。その基本計画では、地域住民である高齢者やお店を営んでいる経営者、町外からの旅行者など多様な人々の視点から、役場や商工会、高校生や大学生など様々な立場の人々が葛巻町を活性化しようとしている。

子どもたちは、普段の生活における買い物で中心市街地を利用することが多かったり、2年生の町探検においても中心市街地のお店で働いている方々の笑顔の秘密を考えたりするなど、中心市街地は身近な存在である。

そこで、本単元では、「中心市街地」を学習材とし、中心市街地を再生しようとしている人や地域に密着して営業を続けている人など様々な立場の人々が中心市街地の活性化に取り組んでいることを知ったり、多様な人々が利用する中心市街地を活性化するための計画を協働的に構想し、町役場や商工会などの人々に提案したり、実際に計画を行ったりすることで、「多様性」の概念的な知識を獲得することができるのではないかと考えた。

(2) 児童について

本学級の子どもたちは、学習問題や課題を解決する際には、自分の身近な生活経験を根拠に理由を考え、自分の思いや考えを表現していることが多い。しかし、目的に沿っていない根拠や理由を述べることも多い。また、自分たちの目的を達成するために、どのような活動をするよいかを見出すことに課題がある。

また、問題や課題に対して、様々な考え方や意見があつていいという認識をもち、様々な角度から考えた発言をすることがある。しかし、自分の思いや考えが、周りの友達と違うことを気にしすぎて発言できない子どもがいたり、自分以外の思いや考えに対して、否定的に反応をする子どもがいたりする。

(3) 指導にあたって

研究仮説1に関わって

- ①子どもたち自身の生活経験や状況と結びつけるように問うことで、子どもたちが活動に必要感や切実感をもつことができるようにする。
- ②活動の目的や意義を問うことで、なぜ、その活動をするのか子どもたちが説明できるようにする。子どもたちの思いや考えの根拠や理由を引き出す問い返しや、既存の知識を足がかりにできる発問の工夫をすることで、子どもたちがより一層自分事として問題や課題を捉えて取り組むことができるようにする。

研究仮説2に関わって

- ①フローチャートを用いることで、自分たちの目的に沿った活動を、子どもたちが順序性を意識して活動できるようにする。また、クラゲチャートを用いることで、子どもたちが応援計画に対して根拠を明確にもてるようにする。
- ②特別活動で行っている話し合いの仕方や折り合いの付け方を意識させることで、子どもたちが多様な考えを認め合えるように応援計画を決めていくことができるようにする。また、自分たちの応援計画について、社会的事象の見方や考え方を働かせられるように発問を工夫することで、子どもたちが様々な立場から計画を見直すことができるようにする。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

中心市街地の課題の解決に向けた応援計画をつくる活動を通して、中心市街地を盛り上げようとしている人々の取り組みや思いに気づき、様々な立場の人々が活用できる中心市街地の在り方について考えるとともに、地域のために自分ができることに進んで関わっていくことができるようにする。

(2) 単元の評価規準（第2小単元）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 中心市街地を活性化しようとする人々がそれぞれの立場で努力していることに気付くとともに、その人たちの思いを理解している。</p> <p>イ 応援計画をつくるために、身近な人や地域の人にインタビューやアンケートをして、情報を収集している。</p> <p>ウ 中心市街地を活性化しようとしている人たち</p>	<p>エ 地域の人々との交流を通して感じたことや考えたことから課題を設定し、解決の見通しをもちながら活動を行っている。</p> <p>オ 必要な情報を得るために、順序立てて計画を立てたり、集めた情報の中から必要な情報を取捨選択したりしている。</p> <p>カ 中心市街地を活性化しようとしている人や店を営んでいる人、様々な立場の消費者への思いや考えを関連づけながら、応援計画の具体的な内容について根拠を</p>	<p>ク 中心市街地を活性化としている人たちや店を営んでいる人から話を聞くことで、中心市街地活性化の取り組みへの関心を高め、葛巻町の店を盛り上げたいという願いの実現に向けて、他者の考えを取り入れながら、協働的に計画を実行している。</p> <p>ケ 自分の考えのよさに気づき、自分と異なる思いや考え方があることを生かしながら、応援計画をつくろうとして</p>

やその人たちの思いに関する理解は、中心市街地と自分たちとの生活との関係を探的に学習してきたことの成果であると気付いている。	明確にして見出している。 キ 中心市街地への自分たちの思いや考えを具体化し、伝えたい相手や目的に応じて、応援するための取組をまとめている。	いる。 コ これまで関わってきた人たちの思いと自分たちの思いを擦り合わせながら、応援計画をつくろうとしている。
---	--	--

(3) 指導と評価の計画 【A…課題設定 B…情報収集 C…整理・分析 D…表現・まとめ】

小単元	過程	○学習内容と学習活動 ◆研究仮説に関わる手立て	評価規準 (評価の観点・評価の方法)
第1小単元（20時間） 「葛巻町の中心市街地について知ろう」			
葛巻町の中心市街地について、社会科見学や葛巻町役場いらっしやい葛巻推進課の方へのインタビューを通して、現状や課題を知る。			
第2小単元 (35時間)	A	○1学期に調べたことを振り返り、中心市街地をどのようにしていきたいか考える。 ◆自分事として問題意識をもつことができるように、子どもの生活経験と中心市街地の課題を関連づけるように問う。 仮説1①、1②に関わる手立て <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">葛巻町のお店の応援団になろう。</div>	
	B	○調査計画を立てる。 ◆調査活動の順序を考えて計画できるように、フローチャートを用いる。 仮説2①に関わる手立て ○調査活動を行う。 ・中心市街地を活性化する取組やその人々の思い ◆次の調査活動につなげられるように「次はどうしたらよいか」と問う。 仮説1②に関わる手立て	オ 必要な情報を得るために、順序立てて計画を立てている。(発言・ワークシート) イ 応援計画をつくるために、身近な人や地域の人にインタビューやアンケートをして、情報を収集している。(ワークシート、活動の様子)
	C	○調査結果を出し合い、中心市街地のために自分たちができることについて話し合う。 ◆根拠を明確にもって取組を考えることができるように、クラゲチャートを用いる。 仮説2①に関わる手立て	

D	<p>○話し合った結果を、応援計画にまとめる。</p> <p>○校内の集会で、役場や商工会の方、店を営んでいる人々を招待して、応援計画を発信する。</p>	<p>キ 中心市街地への自分たちの思いや考えを具体化し、伝えたい相手や目的に応じて、応援するための取組をまとめている。(報告文、発表の様子)</p>
A	<p>○発表した応援計画についての感想や意見をもとに話し合い、新たな課題を設定する。</p> <p>◆発表に対する他学年児童や役場の方、商工会の方、店を営んでいる方などからの感想や意見をもとに、自分たちの計画に足りないことを考えるように問う。</p> <p style="text-align: center;">仮説1①、1②に関わる手立て</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>応援計画の取組を考える時に大切なことはなんだろう。</p> </div>	<p>エ 中心市街地を活性化しようとしている人やお店を営んでいる人との交流を通して感じたことや考えたことから課題を設定し、解決の見通しをもちながら活動を行っている。(発言、ワークシート)</p>
C	<p>○発表に対する意見や感想をもとに見出した視点で自分たちの計画を見直す。(本時)</p>	<p>カ 中心活性化しようとしている人や店を営んでいる人、様々な立場の消費者への思いや考えを関連づけながら、応援計画の具体的な内容について根拠を明確にして見出している。(発言、ワークシート)</p>
B	<p>○分析した結果、課題解決のために足りない情報を考え、調査計画を立てる。</p> <p>○調査活動を行う。</p> <p>○高齢者や障がい者の方などにインタビューを行う。</p>	<p>オ 課題解決のために、集めた情報の中から必要な情報を取捨選択している。(発言、ワークシート)</p> <p>ク それぞれの立場の人たちから話を聞くことで、応援計画への関心を高め、自分たちの願いの実現に向けて、他者の考えを取り入れながら、協働的に計画を実行している。(発言、ワークシート、活動の様子)</p>

C	<p>○調査結果を出し合い、応援計画の取組をもう一度考える。</p> <p>◆根拠を明確にもって取組を考えることができるように、クラゲチャートを用いる。</p> <p style="text-align: center;">仮説2①に関わる手立て</p>	<p>☑自分の考えのよさに気づき、自分と異なる思いや考え方があることを生かしながら、応援計画をつくろうとしている。(発言、ワークシート)</p> <p>☑これまで関わってきた人たちの思いと自分たちの思いを擦り合わせながら、応援計画をつくろうとしている。(発言、報告文)</p>
D	<p>○話し合った結果を、応援計画にまとめる。</p> <p>○校内や役場、商工会などで、応援計画第2案を発信する。</p> <p>○応援計画の実施に向けて、準備を進める。</p>	<p>☑中心市街地を活性化しようとしている人たちやその人たちの思いに関する理解は、中心市街地と自分たちとの生活との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。(発言、ワークシート)</p> <p>☑中心市街地を活性化しようとする人々がそれぞれの立場で努力していることに気付くとともに、その人たちの思いを理解している。(発言、ワークシート)</p>
<p>第3小単元（15時間） 「中心市街地を自分たちの手で盛り上げよう！」</p> <p>中心市街地を活性化する応援計画を作成する。中心市街地を再生しようとしたり、活性化しようとしたりしている人々に提案する。</p>		

4 本時の指導計画

(1) 目標

応援計画について、中心市街地を活性化しようとしている人やお店を営んでいる人、様々な立場の消費者への思いや考えをもとに多面的に考えることができる。

思考力、判断力、表現力等

(2) 評価規準

中心市街地を活性化しようとしている人や店を営んでいる人、様々な立場の消費者への思いや考えを関連づけながら、応援計画の具体的な内容について根拠を明確にして見出している。

思考・判断・表現

(3) 展開

段階	学習内容と学習活動	□指導上の留意点 ◆研究に関わる手立て ◎評価	資料等
導入 2分	1. 課題を設定する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">様々な立場の人の視点から、計画を見直そう。</div>	□前時の学習を振り返り、本時の課題解決への意欲をもつことができるようにする。	ワークシート
展開 35分	2. 見出した視点をもとに、自分たちの計画を見直す。 ○人によって、取組に対する見方や考え方が異なること 3. 見直したことを学級全体で交流する。 4. 応援計画の方針や条件を再設定する。 ○様々な立場の人の視点から取組を考えることの大切さ	◆様々な立場の人の視点から見直したことが一目でわかるような表を用いる。 仮説2①に関わる手立て ◆社会的な事象の見方で検討した複数の取組を、比較したり、総合したりできるように問う。 仮説2②に関わる手立て ◆応援計画の目的を想起させる。 仮説1②に関わる手立て ◎中心市街地を活性化しようとしている人や店を営んでいる人、様々な立場の消費者への思いや考えを関連づけながら、応援計画の具体的な内容について根拠を明確にして見出している。(発言・ワークシート)	ロイロノート表
まとめ 8分	5. 活動を振り返る。 6. 次の時間の見通しをもつ。	□本時で話し合った大切なことを確認してから振り返らせる。 □子どもたちの目的を想起させ、次時の活動に必要なことを考えることができるようにする。	ワークシート